

# 江北の四季

令和3年

4月6日

第48号



ジュンベリー



ヤマブキ(山吹)



ニオイガマズミ(白い莢蒾)

○清明  
四月四日(日)～四月十九日(月)は二十四節  
気の清明。清浄明潔(しやうじやうめいけつ)  
の略で、「空気は澄み、陽の光は明るくすべ  
てを照らし、あらゆるものがはっきりと鮮や  
かに見える頃」です。草木が芽吹いて花が咲  
き、生き生きと輝き、何の植物だったのかが  
わかるようになる季節です。初夏のような気  
候が続く、庭の花々が一斉に咲き出してしま  
いました。今年の春は余りにも駆け足です。  
リキュウバイ(利休梅)、ジュンベリー、ヤ  
マブキ(山吹)、フイリコデマリ(斑入り小手  
毬)、ツツジ(躑躅)など、次々と咲いては散っ  
ていきます。庭のバラも枝が伸びきらないう  
ちに花芽がつき出しました。そのおいしい花  
芽にバラゾウムシとアブラムシがどこからか  
寄ってきています。四月早々から、鍋をバラ  
の下に受けてバラゾウムシとりです！



立花新風体



フイリコデマリ(斑入り小手毬)



ツツジ(躑躅)

ジュンベリー、ヤマブキ、ツツジ、アジサイ、  
ニオイガマズミ、シラー、ヒマラヤユキノシタ  
☆満開になる前の蕾の内に生けたかったのですが  
……………。これはこれで春爛漫の花です。



リキュウバイ(利休梅)



シャガ(著栽)

○第十三候、清明初候、玄鳥至(つばめきたる)

「玄」は「奥深い所」、また、奥深い所は暗いので「黒い」という意味があります。「玄関、幽玄」などは前者の意で、「玄米、玄鳥」などは後者の意となります。で、「玄鳥」は黒い鳥つまりツバメ(燕)です。確か、昔の人はツバクロといってました。冬の間は暖かい東南アジアの島々で過ごしたツバメは日本で巣作りをし、子育てを二回します。我が家も建て替える前までは玄関のガラス戸に穴を空け、ツバメが自由に入入りできるようにして、土間の天井に巣作りをさせていました。雛が生まれると賑やかで、ツバメと一緒に暮らしていた時代が懐かしくもあります。

○玄

また蛇足ですが、「玄」というと、「青朱白玄(せいしゆはくげん)」の「玄」でもありません。「青朱白玄」は「青赤白黒」の意ですが、「東南西北(トナンシヤーパーイ)」あるいは「春夏秋冬」も表します。「東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武」です。あるいは、「青春、朱夏、白秋、玄冬」といい、年齢を重ねる意味もあります。朱雀大路は宮城から南へ延びた大通りですし、北原白秋のペンネームもここから来ています。さて、私の人生は白秋あたりなのでしょうか、それとも心のままに青春と言っているのでしょうか？



ネモフィラ



原種チューリップ  
後ろはビルウォーリス

○卯月(うづき)

四月の異名は卯月、あるいは卯花月(うのはなつき)。卯の花はウツギ(空木)の花の別称で、白い小花が枝一杯に咲く様子は新緑の中でひととき目立ちます。一枝を玄関に生けただけで初夏の香りが充満します。四月に咲くのはヒメウツギ(姫空木)、五月になるとバイカウツギ(梅花空木)やタニウツギ(谷空木)が咲き出します。  
ちなみに、豆腐のしぼりかす(おから)をウノハナと呼ぶのは、この白い小花の咲いている姿と似ているからです。



ヒメウツギ 手前はデージー

○椿寿忌(ちんじゆき)

四月八日は入学式、花まつり(灌仏会)、そして高浜虚子(明治七年)昭和三十四年)の命日。椿をこよなく愛したことから椿寿忌と。

春風や闘志抱きて丘に立つ

高浜虚子



クロツバキ  
(黒椿)

